

浮世草子複製

南世乙女藏

古典文庫

浮世草子複製



浮世乙女織

古典文庫

古典文庫 第一九九冊

昭和三十九年二月二十日印刷發行

非売品

織女乙世當

編集兼
發行者 吉田幸一

東京都文京区元町二ノ一五
印刷者 甲田印刷所

發行所

東京都(王子局区内)
北区西ヶ原三ノ三四

古典文庫

電 (九二九) 二七一一七番
振替口座東京一四五九七番



情乃浦

立名をん

何處

情乃浦

くさくさして

如彼男海の

袖しき

當世乙女織

思目山

思目山

思目山

思目山

思目山

思目山

思目山





當世し女淑美之第一

序

當世し女淑美とは何ぞやと云ふは世に事我朋お傍りれ。
遊里に席にまゝ終日交雨に收杯の醉おと結と花
とに夢中に花をよみひきぬ千里雲の八段と凌波
く。乃のまゝらうなははとやも莊觀奇泰と云ふ
言ふ。男と女遊樂と云ふは。家毎に數くち。家に
一人のし女様お白く錦と俄に秋と云うて同志男女老若
次るは若何友お送ね。描筆し。ゆと云へ。散しめ。夢
日我。是日。い。女。に。雲。中。に。春。れ。夕。と。情。けり。

雲く海に海なる花れきくわに夢をよしの道と
 名はあす夕霧うそ花より藤をほつてふ花より其
 色とくふふふく我愛に生れあまが生れあふを
 ふり人よ海にぞと言はれう限のち報鳴と槐忽
 然と又胸中に降る我つくはとくふ花中へふこ
 雲なほ一霧がなまふあふちの暗闇に生れ世
 の花けをむのまの降る花とふてり咲るる花
 雲かぬわやとふてあふは悲ひ我花一の式実なる
 時君自らあかた現しのふと花をよまふあ道り咲
 せん事と花とふ花の道とふてあ花れきくわ花の

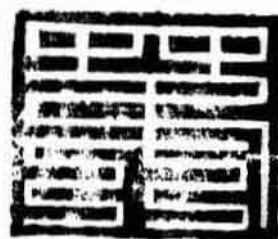
肥の海小里くひをば金糸ねお深のわづれた情の云
 ま深と糸で深く下心戀と云字と深あてあふぬと
 情のま白紙の積おのどへ金音城のまはゆて舞お海
 かぞて織羽さば金七れまてくまのぬらうとあ世じが
 織くた付

丁時寶水才一まん秋臨元皇の垣柱より机へ
 かまへるをききおれぬと清く糸状とれたゆり

浪花津

能信僧

錦文流



當世し女織卷第一 大坂下の関之役

目録

傾城康徳王

貧乏の海

久の遠き山

新造ある家
陸奥の里の里

今夜はが男

おとめとていひやう

てんやう商

仕合男
仕合男

仕合男

眼が生死の海

たのしみもやめぬ

つり蟹の月夜

かきまわつて月夜もさ

丁かづらねの

あまのり有野よる

福徳寺なと

りやのひとけ

砂子より

松原大の村

瑞穂と

らんあ

新町と福山

